

全国協議会 ニュース

2025年7月1日発行 第395号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

全国協議会 2025年度通常総会開催

5月25日(日)に愛知医療センター名古屋第一病院東棟2階(名古屋市内)において全国骨髄バンク推進連絡協議会2025年度通常総会が開催されました。2024年度の事業報告及び決算・監査報告、2025年度の事業計画(案)及び予算(案)の他、定款の変更も承認されました。また、今年役員改選の年に当たり表のとおり役員が選任されました。



《2024年度事業報告》

高額療養費制度の自己負担額引き上げ問題は社会でも大きな議論を呼びました。全国協議会では、厚生労働大臣・厚生労働副大臣宛に要望書を提出しました。多くの患者団体などが働きかけた結果、2025年8月に予定されていた自己負担額引き上げは見送りとなりました。

1995年9月に助成申請受付を開始

した佐藤きち子基金は、2025年に設立30周年を迎え、それに先立ち今年1月に助成金額の累計が1億円を突破し、約400人の患者さんを支援しました。

2024年秋から編集作業を開始した「白血病と言われたら」第7版を2025年5月25日に発行しました。

2024年度は4年ぶりに一堂に会した全国骨髄バンクボランティアの集いを新宿区立角筈区民ホールで開催し、骨髄バンクを介して移植を受けた9人の患者さんに登壇いただき、出会うことのないドナーへの感謝を伝え、ボランティアのモチベーションのアップに

もつながりました。

啓発のためのパネル展も多く開催され、患者とドナーのお手紙展は個人情報に留意し、現在の心情を表した感謝のメッセージ展として開始しました。

日本骨髄バンクと随時意見交換を行うことになり、東京の大学登録会へ近県から説明員派遣を調整し、若年ドナー登録者増につながりました。

《2025年度事業計画》

今年度もすべての患者さんの救命とQOLの向上を図る活動、ドナー登録と普及啓発を推進する活動を継続して行ってまいります。スワブによるHLA検査とオンライン申込の導入への協力、事業共催による全国のボランティア団体との協働など、財政改善を図りながら活動をしてまいります。

《定款変更・特定資産取崩報告》

会議の緊急開催が可能になるよう総会の招集を7日前(現行10日前)、理事会の招集を2日前(現行7日前)への変更が承認され、また、特定資産の取り崩しの報告がなされました。

(詳しくはホームページをご覧ください)

決算および予算の概要

経常収益		
科目	2024年度決算額	2025年度予算額
会費収入	312	312
賛助会費	1,868	1,760
寄付金	18,547	23,000
継続寄付	—	984
募金箱	16,259	15,000
販売収入	2,608	3,000
その他	177	200
収入合計	39,771	44,256
経常費用		
科目	2024年度決算額	2025年度予算額
患者支援金	9,871	11,000
行事費	3,923	4,450
製作・印刷費	2,445	6,860
交通・通信費	5,061	5,600
広告宣伝費	1,193	1,300
人件費	18,472	17,270
家賃・水道光熱費	3,101	3,412
委託手数料	2,900	3,825
事務費・他	2,290	2,175
棚卸在庫増減額	873	▲1,769
支出合計	50,129	54,123
収支差額	▲10,358	▲9,867
次年度繰越金	95,968	86,101
(うち基金)	67,453	50,955

役員名簿

(任期：2025年度通常総会終了後～2027年度通常総会終了まで)

役職	氏名
会長	渋谷俊徳
副会長	大谷貴子
	田中重勝
理事長	梅田正造
副理事長	浅野祐子
	北折健次郎
	村上忠雄
	山村詔一郎
	若木 換
	笠原千夏子
理事	川下 勉
	齊藤千秋
	菅 早苗
	鈴木敏生
	館野守男
	内藤真澄
監事	山口明大
	笠原慶一
	黒部光司

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDF(6月13日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2025年5月末現在)

	4月	5月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	3,250	2,906	563,885	1,001,074	
患者登録者数	219	189	1,746	71,357	
採取数	骨髄	58	57	—	27,156
	末梢血幹細胞	22	25	—	2,507
	合計	80	82	—	29,663

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■5月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/583人、献血併行型集団登録会/2,277人、集団登録会/0人、その他/46人

■5月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 5,125人/20代 98,672人/30代 137,625人
40代 209,196人/50代 113,267人

■5月の20歳未満の登録者686人

(注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

会長就任挨拶



会長
しげや とし のり
渋谷俊徳

この度、全国協議会の会長を拝命致しました渋谷俊徳です。

私はライオンズクラブの一員として、日本に骨髄バンク事業がスタートした1990年代よりドナー登録促進活動・患者支援活動・骨髄バンク事業の

啓発活動に全国協議会と共に今日迄取り組んで参りました。当初は全国協議会に伴走する形でしたが2015年7月からは副会長という立場で全国協議会の一員として活動し現在に至りました。

今年は全国協議会設立35周年という節目の年に当たりますが、昨今患者様を取り巻く環境が大きく変わってきていると言われて居ります。又更に新しい治療法の確立や新薬の出現のみにとどまらず、ドナー登録の方法までもが変わろうとして居り、全国協議会も「全ての患者様の為に」という想いを

持ち続けながら、社会全体の大きな流れの中で変わっていく必要があると思っています。

ボランティアの皆様的情熱にはいつも深い敬意を感じて居ります。そのような皆様と御一緒に活動出来る事幸せに感じて居ります。今現在病に苦しんでいる患者様やご家族にとり最も適切な支援を提供できる様微力では有りますが皆様と共に全国協議会の発展に努めたいと思います。

皆様のお力添えの程宜しくお願い申し上げます。

理事長就任挨拶



理事長
うめだ しょうぞう
梅田正造

5月25日(日)、名古屋で開催された総会で第13期(2025年5月25日~2027年5月)の新役員が承認されました。私は理事長を継続して務める

ことになりました。

第12期の出来事を振り返ると仲田順和会長が2023年11月に遷化されました。2025年3月に「高額療養費制度 自己負担額引き上げ」について国に要望書を提出し、その効果もあり同8月に予定されていた引き上げは見送りとなりました。

佐藤きち子基金は2025年に設立30周年を迎え、助成金額の累計は1月に1億円を突破しました。また「白血病

と言われたら」第7版を2025年5月に発行しました。

第13期も各地の加盟団体と結束して、すべての患者さんの救命とQOLの向上を図る活動、ドナー登録と普及啓発を推進する活動を行うとともに、より良い骨髄バンクと造血幹細胞移植医療を求める活動を進めてまいりますので、皆様方のご支援をよろしく願います。

全国協議会 第13期新任役員のご紹介



すが さなえ
菅 早苗

再び理事に就任しました秋田の菅です。1991年の秋田の会の立ち上げから来年で35年になり、その間長期にわたり全国協議会の運営委員、理事を担当させていただきました。本当であれば若い、フレッシュな方に担っていただきたいと思っておりましたが、また私にと東北の会員の皆さまからご推薦をいただきましたので、微力ではありますがまだお役に立てることがあるのであれば、とお引き受けいたしました。私は、全国協議会では患者支援の活動を主に担当してまいりましたが、未だに骨髄バンクに患者登録した方の半数しか移植に結び付かず、さい帯血バンクでは生じない患者負担金が課せられていたり、長期にわたって分子標的薬を服薬しなければならない慢性骨髄性白血病などの患者さんの経済的負担の軽減策である高額療養費制度の改悪を国が模索するなど患者さんを取り巻く状況は厳しいままです。少しでも患者さんの闘病生活が改善される事を目標に2年間の任期を送りたいと思います。



かさ はら ち か こ
笠原千夏子

この度、全国骨髄バンク推進連絡協議会の理事に再任されました「特定非営利活動法人骨髄バンク長野ひまわりの会」理事長の笠原千夏子です。私は2012年10月に「慢性骨髄性白血病」を発症しました。突然の告知で頭の中は真白。根治を目指すには骨髄移植が必要と主治医に告知されました。「骨髄移植って何?」「骨髄バンクって何?」と私は骨髄バンクという名前は聞いたことはありましたが全くの無知でした。たった一人しか居ない実弟と白血球の型が一致し2013年2月末梢血幹細胞移植をし、命が助かりました。助かった命を今度は人を助けようと前向きになり、長野県を動かししました。当時、長野県はドナー登録数最下位。数を競うことではありませんが、骨髄バンクの存在を知ることがまずは大切なのではないかと思えます。全国協議会に新しい風を吹かせるつもりで理事を頑張りますので、皆で楽しみながら頑張っていきたいと思います。宜しくお願いいたします。



ないとう ますみ
内藤真澄

この度新たに理事に就任いたしましたNPO法人福岡こどもホスピスプロジェクトの内藤真澄と申します。2011年に当時3歳の息子を白血病で見送りました。息子がつないでくれたご縁から、2015年公益財団法人がんの子どもを守る会九州北支部幹事、2016年より九州大病院小児医療センター親の会すまいる代表、福岡ファミリーハウス理事、2020年よりNPO法人福岡こどもホスピスプロジェクトの理事を務め現在の活動に至ります。息子は再発後臍帯血移植となりましたが、当時は周りに骨髄移植をするお友達もたくさんいましたので、親同士で移植治療の情報交換をする中、「ドナーの方はどんな人なんだろう」と話したことを覚えています。理事の就任に際し、これまでは協議会からの情報を受けとる側でしたが、九州、福岡において啓発や登録活動など発信する側として活動に力を入れたいと思います。皆さまご指導のほどよろしく願います。

2025 情報交換会 第2部はグループディスカッションを実施

5月25日(日)2025年度通常総会に引き続き、加盟23団体が参加して情報交換会を開催しました。今回は2部制で行われ、1部では各地団体の活動報告・情報交換、2部では6つのグループに分かれ、それぞれのグループで個別のテーマを絞り込みディスカッションを行いました。



1部 各地の活動報告

①登録会の実施

各地では献血併行型登録会を開催しており、年間500回を超える開催、2,000人近く登録者がある団体もありました。大学との連携による若年層への働きかけや市役所の健康診断での登録会を行っている団体もありました。

②啓発・広報活動

チャリティコンサートやパネル展に加え、関連映画の上映会も増えてきました。

「いのちのアサガオ」や「ひまわりの種」の取り組みが教育機関や企業で広がりを見せており子どもたちへの啓発に貢献しているとの報告もありました。

③若年層へのアプローチ

大学生が学生献血推進協議会で説明員として活動したり、大学生の骨髄提供・移植経験者との連携で活動を行ったりするなど、学生が自ら推進している様子もうかがえました。大学のキャンパスライオンズクラブ設立が進んでいるとの報告もありました。

④患者支援

ケア帽子・中心静脈カテーテルケースの病院への寄贈、医療講演会や患者相談会といった活動が各地で取り組まれています。イオン幸せの黄色いレシート収益を活用して小児病棟へのプレゼントを行っている団体もありました。

⑤組織体制の整備

高齢化や新規会員獲得は多くの団体での課題となっています。また、登録会や説明員養成などでは行政や関係機関との連携強化が必要となっています。

2部 グループディスカッション

第2部では、参加者による双方向の情報交換を目的として、6つのグループに分かれてグループディスカッショ

ンを行いました。

「ドナー登録活動について」「加盟団体としての体制強化について」「患者支援について」のテーマから1つを選んでグループで話し合いました。

なるべく遠距離の団体同士でグループを構成し、今まで交流のなかった者同士が自由に語り合える場となるように編成し、他団体の有意義な活動企画などを知ることができるようにしました。相手の話を聞き、自分もしゃべり、今までできなかった経験交流の場となりました。

各グループとも熱心に話し合い、時のたつのも忘れて情報交換を行っていました。次回はもう少し時間を取り、グループ発表への質疑等ができるように時間配分を検討します。

以下、終了後の主なご意見です。

- 報告を聞くだけでなく意見のやり取りができ良かった。
- 具体的な取り組みや課題を共有でき今後の活動の参考になった。
- いろいろな地域が抱える違う問題点があることが分かった。
- 各地でご苦労されながらドナー登録を進めている様子を聞いて、地元でもさらに進めていこうと思った。
- 骨髄バンクが全国各地のボランティア団体に支えられて成り立っていることに感慨深いものがある。

(全国協議会副理事長 若木換)

「ドナー候補者へ教育上の配慮を」文科省から教育機関などに発信

2025年4月28日付で文部科学省高等教育局大学振興課長から、各都道府県教育委員会教育長、各都道府県知事、国公立大学長、国公立高等専門学校長をはじめとした各教育機関の長などに宛てた「学生が骨髄バンクドナー候補となった場合における教育上の配慮について(通知)」が発信されました。

現在、日本における骨髄バンク事業推進における『公欠制度』の導入は、造血幹細胞移植治療を必要とする患者さんにとって非常に重要な課題となっています。せっかくドナー候補になり提供の意思を持っていても、候補者が学生で提供のために学業を休む必要が

ある場合、公に認められた「休み」が取得できないと学業への影響を懸念せざるを得なく、提供に至らない事態も起こってしまいます。この通知は、そのようなことのないように知事や教育長、各教育機関の長などに教育上の配慮を要請する内容となっています。『公欠制度』の導入を直接的に呼びかけるものではありませんが、補講・追試の実施やレポートの活用による学修評価を行うなどの適切な配慮を講じることを要請するものです。

この通知は、厚生労働省移植医療対策推進室長が骨髄移植及び末梢血幹細胞移植の有効性、重要性を踏まえ、提供しやすい環境作りが喫緊の課題であ

るとして、文部科学省高等教育局大学振興課長に教育上の配慮を依頼し実現しました。

日本骨髄バンクの説明によると、ドナー候補者となった学生はまず学校に相談し、代替措置がとられない場合やコーディネートの流れ等の説明が必要な場合は日本骨髄バンクに相談します。ドナー候補者からの相談や要請を受けた日本骨髄バンクはその学校の担当者に連絡し、コーディネートの流れや証明書の発行について説明し、協力を要請するという手順になるとのことです。

関係者がそれぞれの立場で協力し合い、血液難病の患者さんが希望をもって闘病に取り組む環境が整えられることを望みます。

骨髄バンクドナー登録者数が累計100万人に到達

1991年12月18日に財団法人骨髄移植推進財団（現：公益財団法人日本骨髄バンク）設立、1992年に日本赤十字社が「骨髄データセンター」を設置、1月6日からドナー登録の受付が始まりました。33年後の今年5月22日（木）に、ドナー登録者累計数が100万人に到達いたしました。全国骨髄バンク推進連絡協議会が発足して35周年となる記念すべき年の達成に、感慨深いものがあります。

ドナー登録をしていただいた皆様の善意、骨髄バンク事業に関わる全ての皆様、ボランティアの皆様の地道な活動によって支えられて今日があります。心より感謝申し上げます。

5月末現在のドナー登録者数は563,885人です。しかし、移植を希望される方の約6割しか移植を受けられていないのが実状です。白血病などの血液難病に苦しむ患者さんを救命するため、骨髄移植を希望する患者さん全員にドナーが見つかる時代を迎えられますように、今後もドナー登録の更なる拡大に尽力しなければなりません。全国協議会としては各地のボランティア団体の皆さんと共に、引き続き、日本骨髄バンク・日本赤十字社・各関係機関の皆様と手を携えて頑張っておりますので、何卒よろしくようお願い申し上げます。

（全国協議会理事 川下勉）



「30歳で白血病となり2度の移植を経験。現在は自分らしく生きることを目標にお絵かきクリエイターとして活動中。」

各地のたより
各地のたよりを写真添えてお寄せください。

大阪
大阪青年会議所の協賛で併行型登録会開催



今年も一般社団法人大阪青年会議所（JCI大阪）様協賛の献血活動が6月7日（土）に大阪市内5カ所で開催され、献血受付413名、

採血328名のご協力となりました。会場の一つだった京橋駅前献血活動では、献血併行型骨髄バンク登録会を開催いただき、献血受付は最多の99名、骨髄バンク登録は24名の方にご協力いただきました。

女性メンバーの方が、一人ひとりに丁寧に献血協力の声をかけてくださったおかげで、献血に来てくださる方、骨髄バンクの話聞いて登録してくださる方が増えました。「献血呼びかけが楽しかった。来年も楽しみにしています!」と感想を言っておられとても嬉しく思いました。

25歳から40歳までの青年で構成されているJCI大阪様は、コロナ禍が始まった2020年より献血活動を実施され、一部の会場では骨髄バンク登録会も開催いただいています。多くのメンバーさん、地域の皆さんにご協力いただいています。また、JC活動での献血が人生で初めての方も多く、若年層献血に大きく貢献されています。

今後もいろいろな団体様と協力し、献血と骨髄バンク普及に取り組むと思っています。
（関西骨髄バンク推進協会 赤木晴香）

駒沢公園を走りませんか

「2025 グリーンリボンランニングフェスティバル」が、10月13日（月・祝）に東京・駒沢オリンピック公園で開催されます。移植者やドナーファミリー、障がい者、一般ランナーが共に走り、移植医療に関する理解を広めるイベントです。骨髄バンクPRランナーを募集します。8月21日（木：先着順）までに全国協議会事務局へ。詳しくは協議会ホームページ「新着情報」をご覧ください。

心からのご寄付に感謝申し上げます ●5月21日～6月20日（敬称略）
当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	尾崎 久美子 現金 100,000円	日根 和美 現金 5,000円	株式会社 フクヤ
	鈴木 あや子 現金 50,000円	津々見 利丈 現金 30,000円	現金 3,802円
	オークランド観光開発(株) 現金 20,000円	●ごうのりマリン基金	骨髄バンク GATHER の会
	三品 雅義 現金 20,000円	野村 裕子 現金 100,000円	現金 843円
	むさし野アンサンブルグループ平岡聖 現金 16,100円	●募金箱	●つながる募金
	渋谷 俊徳 現金 10,000円	株式会社 クスリのアオキ	現金 6,200円
	須藤 勝巳 現金 6,800円	株式会社 マルト商事	●キモチと。 現金 8,160円
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	株式会社 ナルックス	現金 61,759円	●マンスリーサポート 現金 44,000円
本田 真奈美 現金 5,000円	現金 117円		

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。